

令和元年度 開一小・早宮小・開一中の小中一貫教育課題改善カリキュラム（家庭科：快適な衣服と住まい）

学習期	内容項目	身に付けさせたい力	課題	具体例	カリキュラム改善の視点
小学校 第5学年	<p>ひと針に心をこめて</p> <ul style="list-style-type: none"> 針と糸を使ってできることを探そう 手ぬいにトライ！ 手ぬいのよさを生かそう <p>ミシンにトライ！</p> <p>手作り楽しい生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 布で作られた物のよさを見つけよう ミシンにトライ！ 作品を楽しく使おう 	<ul style="list-style-type: none"> 手縫いに関心を持ち、目的に応じた縫い方で製作する。 製作に必要な用具の安全な取り扱いができる。 手縫い（玉結び、玉どめ、名前の縫いとり、なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、ボタン付けなど）の技能を身に付ける。 ミシン縫いに関心を持ち、目的に応じた縫い方で製作する。 ミシンの基本的な操作（上糸のかけ方、下糸の取り出し方など）を理解し、操作できる。 ミシンを用いた直線縫い（直線縫い、返し縫いなど）の技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験不足 個人差が大きい。 一人一人の技能をしっかりと見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の方と連携し、きめ細かく見てもらおう。 →裁縫の得意な方に授業に数人入っていただき、個別対応ができる環境をつくる。 玉結び・玉どめの実技テスト ミシンの基本的な操作の実技テスト ミシンを用いた直線縫いのテスト 作りたいものの設計図、型紙を作成させる。 作りたいものの設計図、型紙を作成させる。 ミシンの基本的な操作、ミシンを用いた直線縫い、手縫いの復習 生活に生かし、繰り返し実践する機会をつくる。 →家庭で保護者に見てもらいながら練習する。（ぞうきんを縫う、ボタンを付けるなど、実生活で行う。） 	<p>《技能を定着させる手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○できるようになるう（技能の習熟） ↓ ○ふり返ろう（技能の確認） ↓ ○やってみよう（実践） ↓ ○家でもやってみよう（家庭での実践） 長期休暇の宿題
小学校 第6学年	<p>思いを形に</p> <p>生活に役立つ布製品</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的に合った形や大きさとぬい方を考えよう 工夫して作ろう 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて布を選び、形や大きさと縫い方（手縫いやミシン縫いを用いた直線縫い）を工夫して製作する。 手縫い、ミシン縫いの技能、ミシンの基本的な操作を身に付ける。 			
中学校 第1学年 第2学年 第3学年	<p>生活を豊かにするものを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎縫い 布を用いた物の製作 <p>幼児とのふれ合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の身体や生理的特徴に適した衣服について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎縫い（まつり縫い、ボタン付け、スナップ付け、ミシン縫い）の技能を身に付ける。 製作計画や方法についての工夫する 安全で効率よく製作する工夫する。 布を用いた物の製作に関する知識を身に付ける。 幼児に関心を持ち、適切に関わることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能（ミシンの操作、玉どめ玉結び）が身につけていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭にミシンがないため、休業中に個別に時間を設定して補習を行う。 学年全員に実技テストを行ってそれぞれの生徒が習得している技能を確認する。 特にミシンは安全に作業ができるレベルにない生徒が多いのでミシンを使った製作の課題設定の時期を考慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○6年生を対象に検定カードを用いて技術の向上をはかる。（小中統一の基準にし、進級後も生かす。）

		ようにする。			
--	--	--------	--	--	--